第 13 期英語論文チーム国際学会 参加報告

第 13 期　西森 康斗・川村 澄明

◆香港での国際学会（2016 年 7 月　執筆担当：西森）

◇GMC とは…？

GMC は，“Global Marketing Conference”を正式名称とする国際学会であり，理論と実践の進歩は，世界中の消費者やビジネスに影響を及ぼすグローバルなマーケティングとマネジメントの重要な側面であり続ける，という理念の元で運営されています。2016 年は，“Bridging Asia and the World: Global Platform for Interface between Marketing and Management”をテーマに，香港にて開催されました。

◇発表概要

タイトルは，“What Determines Anime Pilgrims' Visit Intention and Destination Loyalty？"です。アニメ文化は，アニメ聖地巡礼として知られる独特の現象を生み出しています。本論は，その訪問意図および目的地ロイヤルティの規定要因を，社会的影響に着目して探求しました。実証分析の結果，アニメオタク間だけでなく，アニメオタクと地元の人々の間でも相互作用が起きており，それが新たな文化的に結実しているということを見出しました。

◇発表後記

レセプションパーティーに参加するメンバー
（左から清水，山本，小黒，著者）

英論チーム初の海外遠征ということで意気揚々と香港入りしました！ 勢いそのままに観光したい気はやまやまでしたが，翌日の発表に不安の残る我々は，観光を後日の楽しみに取っておき，宿泊先に直行して練習に練習を重ねました。その途中，息抜きがてらレセプションパーティーに参加した我々は，会場である五つ星ホテルの趣や世界の学者が集まる様子に若干圧倒されながらも，このような立派な舞台で発表するのだと，改めて気を引き締めました。レセプションパーティーを後にした我々は，発表を成功させるために，納得のいくまでそれぞれの自室で練習を続けたのでした。そして，遂に本番当日の朝がやってきました。慌ただしく準備を終えた我々は，会場となるフロアに到着。フロアには幾つかの部屋があり，それぞれの部屋で様々な国からやっ

発表後，GMC の開催されたホテルにて
（左から菊盛さん，英論チーム 5 人，小野先生）

てきた学者たちが発表を行っていました。世界の学者たちの発表を横目に見ながら緊張を高めていた我々に，とうとう出番がやってきました。会場には予想以上に多くの聴衆が待っており，メンバー一同驚きましたが，自分たちが心血を注いできた研究の成果を彼らに伝え，評価してもらいたいという想いの元，皆全力で発表を行いました。発表を終えると，素晴らしい研究だと様々な教授方から多くの賛辞をいただき，これまでの苦労が報われたと感じるとともに，今まで以上に自分たちの研究を誇りに思うことができました。我々英論チームが目標としていた学会で発表ができて，本当に良かったと改めて感じることができ，この日は気持ち良く眠りにつきました。そして，発表を終えた翌日には，思いっきり羽を伸ばして観光を楽しみました。昼には香港の名所を巡りつつ美味しいものを堪能し，夜には街に繰り出して異国の雰囲気を楽しみました。こうして，国際学会という貴重な経験を得ただけでなく，異国情緒を堪能した，最高の旅は幕を閉じたのでした。

皆で香港を堪能！

2015 年 6 月から始まった英論活動。その過程には辛いことが多くありましたが，今では充実した日々だったと思います。テーマ決めから発表まで，メンバー間で多くの意見のぶつけ合いをして，少しでも論文を良いものにするためにと藻掻いてきました。その中で，今後に活きるであろう多くのことを学ぶことができました。しかし，それだけでは，GMC のような世界の学者が集う場での発表機会を得られる域には及ばなかったと思います。そこまで至ることができたのは，多くの方々にご助力いただいたからこそであると我々英論チームは，実感しております。ここまで支えて下さった皆さんに，心よりの感謝の意を表したいと思います。とりわけ，昼夜を問わずご指導下さった小野先生，そして，テーマ決めの段階から最後まで相談に乗って下さった大学院生の方々には，大変お世話になりました。これまでの活動を通して培った経験を糧にして，社会に出てから活躍できるように精進して参りたいと思います。皆さん，本当にありがとうございました！

◆中国での国際学会（2016 年 10 月　執筆担当：川村）

◇執筆論文の概要

今回，ICAMA に参加した第 13 期英論チームの論文のタイトルは，“Social Influences as Determinants of *Anime* Pilgrimage”（アニメ聖地巡礼の規定要因としての社会的影響について）です。本論は，昨年大ヒットした映画「君の名は。」でも話題となったアニメ聖地巡礼をテーマとしています。アニメ聖地巡礼とは，一言で言うなら，アニメのワンシーンに用いられた場所を，実際に訪れることです。ですが，多くのアニメ制作会社は，わざわざアニメに用いた場所を公表したりはしていません。それでは，どうやってアニメ聖地巡礼が可能となるのでしょうか。それは，少数のアニメファンの努力によって，その場所が探し出されるからです。本論は，アニメファンがなぜそのように実際にアニメで用いられた場所を探し出し，そしてその場所がどのようにして聖地として認められていくのかを探究しました。

◇北京にて

私たち第 13 期英語論文チームは，ICAMA で口頭プレゼンテーションを行うことを期待して投稿しましたが，学会当日の数日前に運営者から連絡があり，私たちのトラックはすべてパネルプレゼンテーションのみに変更されてしまいました。そのため，北京には来たものの，当日に発表を行う必要がなくなった小黒，西森，そして著者は，自身の論文の発表を控えた清水にパネルを任せ，万里の長城を観光しました。また，その翌日には，ICAMA に参加した第 13 期英論チームのメンバーに加えて，大学院生の中村さん，廖さん，そして小野先生と一緒に，北京市内を観光しました（私が雲呑を注文したばかりに，天壇公園の入園時間に間に合わなかったこと，大変申し訳ございませんでした…！）。

この度の国際学会では，プレゼンこそできませんでしたが，そのことも含めて，貴重な経験ができたと思います。私たちが必死になって執筆した論文で以て，二度も国際学会の場に赴くことができたこと，大変誇りに思います。投稿に際しまして，小野先生には多大なるご指導を賜りました。この場を借りて，感謝し申し上げます。そして，本論の執筆に携わってくださった，大学院生の皆様，第 12 期の先輩方，そして同期の皆にも，改めて感謝し申し上げます。

北京大学校門前にて
（左から，清水，中村さん，著者，小野先生，廖さん，小黒，西森）